成人向
for adult

イヴの闇

あれ…？
ティアは…？

ルナティーク君は
来ないよ

今日は
特別な実験
だからね

…ただ
ルナティーク君には
この実験のことは
まだ秘密にしておいて
くれるかな

いい結果を出して
後で驚かせて
あげたいからね

ティアを
おどろかせる…？

うん！
わかった
ないしょにする！

とくべつな
じっけん…？

そう

君にとっても
とても
いいことだよ

…では
始めよう

その台に
寝てくれるかな

はいっ

これでいい？

えっ？

あっ
なに…？

そのまま
じっとして
いなさい

くすぐったい…

ナデナデ

…っ…

ここは…
さすがにまだ
成長が
足りないか

ぷくっ
ぷくっ
ふたっ
ふたっ

…は…っ…

…しかし
感度は
いいようだ

ぷくっ
ぷくっ

あ…んっ

ふぁ…

ふにっ
ふにっ

あ…っ

ぷくっ
ぷくっ

ふしぎな感じ…

は…っ

…ぁ…

ぴくっ

はっ

これって…
何の…実験？

…クローン
である君が

ふっ…

この体で…
人と同じように
快感を得られるか
どうか……

すー
すー

それを
試すんだよ

キミが
気持ちいいと
感じることが
出来るかどうかだ

ぴくっ

はっ

あっ
んっ…

カイ…カン？

はっ

んん…
それなら…

ぴくっ

ちょっとだけ…

ぴくんっ

気持ちいい
…かな…

はっ

そう…
そうか

はっ

こ…
こう…？

はっ

…それでは
脚を広げて

はっ

ぴくっ

あっ

わ…
こんなに広げるの…？
そうだよ
特にこの部分を調べなければならないからね
ぬぢ
ぬぢ
んっ…あくぅ!!
ぬぢ
おや…
中はもうしっかり濡れているじゃないか…
あっ……
くちゅ…
びくっ
あっ
あっ…
それ…も
びく
くちっ
くちっ
ぬりっ
ぬり!
ふ…あう
びく
きもちいい…っ

あ…ぁ
なかに…指…
はいってる…!?
びくっ
キミの
ここにある穴
ここの中でも
快感を感じることが
できるんだよ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
ぬ…ぷ
ぬぷぷっ
ぬぷぷっ
ぬ…ぷ
ぬぷぷっ
ぬぷぷっ
ぬぷぷっ

あ…あっ

きもち…いいの

なん…で…っ

はっ…ぅ…

へん…なのっ

やっ…

あっ…

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

…これは…

…なかなか
素質があるな

初めてで
この反応か…

素晴らしい素材だ
さすがルナティーク君と
いったところか

ぴくっ

なぁ…

なぁ

なぁ…

ぴくっ

ぴくっ

ちゅうう。

ヒ――!!

すいません
忘れ物しちゃって…

そちらまだ
誰かいます？

ルっ
ルナティーク
博士っ!?

今日は
ここまでだ

続きは
明日にしよう

このことは
ルナティーク君には
絶対に言わないように

いいね？

はっ

はっ

――……

うん……

はぁ

はぁ

はっ

次の日

…おや

もう待っていたのか

…うん

…ここ…

またして欲しいの

気持ちいいこと……

ハナ…

…もうこんなにヌルヌルにしてたのか…

そんなに待ちきれなかったのかな…？

ちゅ

くにゅ

ひくっ

ぷるんっ

ぴくん

あ…

う…んっ

はっ
はっ
ぴくっ
また
気持ちいいこと
してもらえる…
これを飲んで
もらおうか
はっ
これ…何？
…っ
んっ
んぐっ
んぐーっ
ぐっ
ぴくっ
えっ…
なに…!?
っ!?
んっ
ぬるっ
ぬるっ
ぬるっ
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ふぅっ…
ぴくっ

指じゃない…っ

ぴちゃ

ぬちゃ

ぬちゃ

ぬ

ぴくっ
いつ…
ぴくっ
いたく…ない…けど…
はぁっ
はぁっ
はぁっ
ぴくっ
ぴくっ
ぴく

この中でも気持ち良かったんじゃないのかな？

はぁっ

あ…う

わかんない…っ

はぁ

…大丈夫だそのうち…

わかんな…っ

ここも随分狭いが…

ニチッ

ニチッ

ぷちゅっ

ぷちゅっ

ふううっ

ううっ

じっくり慣らしていけばいい

ぷちゅっ

ぷちゅっ

ぷちゅっ

ど…どうですか
中の具合は…？

素晴らしい…
想像以上だ

…私も早く
味わってみたい
です…っ

…そう
慌てるな

こちらの
ルナティーク君は…

幸い我々には
従順な
ようだからな

大きい声は
出さないように

「いい結果」を出すためにはもっとこの「実験」を続けなければいけない

博士に気付かれるわけにはいかないだろう？

ふうっ…

く…ふっ

あぁ…

そろそろ……っ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬちょっ

ぬちょっ

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽ

ふ…っ

あ…
こ…これ
なに…

ぴっ

ぴくっ

ぴくっ

あっ

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

あっ…

あっ…
声出しちゃ
ダメなんだ…

ふ…うっ

んんっ…

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

それって
つまりは…

はっ…
博士と

博士と
セックスしてるって
ことですよね…！

ああっ
博士っ…

あ…ぎゅって
するの…好き…

ティアが
してくれるから…

博士とセックス
できるなんて
信じられない…っ

とはいっても
こちらの体はは
まだ成長過程だ

…壊すなよ

わっ…
わかってますよっ

は…博士の中
キツくて…っ

ああ…っ
凄い…

これが
博士の体
なんですね…

はっ…ぁ

博士も
気持ちいい
ですか…!?

博士の
いいところ…
ここ?

ここは…?

ここですか?

さ…最高ですルナティーク博士っ

はっ

あ

…もうっイっ……

ッ…はか…せ…っ

あ…あっ

やっ…

あぁ…

…あ…

は…あ…

す…すいませんっ思わず…中に…っ

仕方ないな…

よくかき出しておけよ

…あ…

離すと寂しい…

ふあっ

あ…っ

や…ぁっ…

あ…ぁ

…じゃあ次は俺で

まだ時間あるか？

もう一回くらいいけるだろ

…そして女の子は
たくさんの
お友達と一緒に
幸せに暮らしました

ところが
ある日……

あら…

なんだか
疲れてるみたいね

何かあったの？
イヴ

…ん…

えっとね…

…えっと…

ティアには…
まだないしょ
…だよ…

まぁ…
そうなの？

いいわよ…
そのまま
眠っても…

ぎゅ…

あ…

ぎゅって
するの…

すき…

たくさん
がんばって…

いつか…

ティアに
褒めて
もらうの…

ふふ…

何を
頑張っているの
かしら…？

楽しみね…

それにしても
順応が早い

モヴァスにも
すっかり
慣れたようだな

…ふっ
薬がなくても
痛がらないか…

ぐぐぐ

ぐぐぐ

ぐぐぐ

ぴくっ
ここっ…
もっと…
はっ
はっ
なぁ
たくさん…
こすると
きもち…
いいから…っ
なぁ
ぴくっ
ぴくっ
ぴくっ

…もしかして
ルナティーク博士も
本当は
相当エロいんじゃ
ないですかね？
はっ…あ
びくっ
びくっ
固そうに見えて
案外すぐに…
ぐちゅっ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ぬぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
じゅぽっ
ぴくっ
ぴくっ
う…んっ
ん…
ビクッ
んっ…あ
ビクッ
ビクッ
ビクッ

あ…

舌で舐めるんだ

…そう

ふっ

え…う

ふ…

ぴっ

ぺちょ

ぺちょ

ぴっ

ぬりっ

ぬりっ

ぬりっ

ぬりっ

スチュッ

スチュッ

むに…

ぴっ

んむ…う

ぷちゅ

ぷちゅ

ぷちゅ

ビクッ
ビクッ
ふあっ…
ビクッ
ビクッ
ビクッ

あっ…

ぱち

ぱち

ぴくっ

ぴっ

ぴっ

ビクッ

ビクッ

こっちも……っ

ぬぽっ

ぴっ

なっ

ぴっ

ぴっ

あ…

口…開けて…っ

は——っ

は——っ

は——っ

う…えっ

っう

ふぁ…

んう…っ

うぇっ…

なっ

ヘンなあじ……

ぴくっ

ぴっ

吐き出さないでちゃんと飲むんだ…できるだろう？

ん…

ん…くっ

ぴっ

ぴっ

ぴ

君は本当に期待以上だよ

博士も喜ぶだろう

はぁ

はっ

仕ほっ

仕ほっ

…ほんとう…？

ああ…

だが博士をたくさん驚かせたいだろう？

うん…

じゃあもっともっと実験を続けよう

あっ

びくっ

うん…っ

がんばる…っ

すりすり

びくっ

ちゃんと頑張れるかな…？

おわり。

■イヴの闇■

たくみな無知 No,26

■発行日 : 2012/12/31
■発行 : たくみな無知/たくみなむち
■http://karen.saiin.net/~muchi/
■印刷 : 緑陽社

18歳未満閲覧禁止　無断転載禁止

たくみな無知